

ART

やきものはアートだ！



ゲンダイトウガイ

Contemporary ceramic art “mini” chronicle

三二 クロニクル

辻智堂／八木一夫／熊倉順吉／荒木高子／山田光／鈴木治／林康夫／坪井明日香／三島喜美代／辻勘之／森野泰明／柳原睦夫／中村錦平／三代宮永東山／佐藤敏／笹山忠保／三輪龍氣生（十二代三輪休雪）／星野暁／西村陽平／深見陶治／松本ヒデオ／秋山陽／八代清水六兵衛／重松あゆみ／田嶋悦子／加藤委／日野田崇／安藤郁子／稲崎崇利子／林茂樹／竹内結三／西田潤／増田敏也／秋永邦洋／金理有／出和絵理／木野智史／岩村遠／田中悠／橋本知成（生年・五十音順）

2026.9.19(土)→11.23(月祝)

■休館日：月曜日（ただし、9月21日（月・祝）、10月12日（月・祝）、11月23日（月・祝）は開館し、9月24日（木）、10月13日（火）は休館）

■開館時間：10時～17時（入館は閉館時間の30分前まで） ■観覧料：一般1,300円（1,000円）、大学生1,000円（800円）、高校生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体割引料金です。※70歳以上の方は半額になります。※障がいのある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

■主催：兵庫陶芸美術館、神戸新聞社 ■後援：兵庫県、兵庫県教育委員会 ■協力：丹波立杭陶磁器協同組合

増田敏也（Low pixel CGfsignJ）2010 兵庫陶芸美術館蔵 photo：南野馨

土と語る、森の中の美術館



兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
TEL: 079-597-3961(代表)
<https://www.mcart.jp>





1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

すべて兵庫陶芸美術館蔵

1. 林康夫 (See through 90-2) 1990
2. 鈴木治 (傾けた顔) 1979
3. 重松あゆみ (骨の耳 93-02) 1993
photo:後藤清
4. 八代清水六兵衛 (Relation 96-A) 1996
5. 田中悠 (Isutsumimono) 2022
6. 三島喜美代 (Paper Bagシリーズ) 1973-77
7. 八木一夫 (貌) 1977
8. 竹内紘三 (Modern Remains Rising) 2017
9. 坪井明日香 (唐織追想(借別の東山)) 1990
10. 西田潤 (絶No.10-a) 2001

ゲンダイトウゲイ*ミニ*クロニクル

土を焼き固めるという意味では、長い歴史を持つやきもの。けれども、自由なかたちを得て、現代アートと同様に多種多様な表現が生まれたのは、じつは戦後から。まだまだ新しいものなのです。その名も「現代陶芸(ゲンダイトウゲイ)」。

本展では、特にうつわではない、いわゆる立体作品に注目し、当館の現代陶芸コレクションの中から、各時代を代表する作家の作品を抽出し、緩やかな年代順で紹介いたします。「クロニクル」には、「年代順に記録する」というほかに、「壮大な物語」というような意味もあります。すべての時代を詳細に追うことは叶いませんが、展示を見進めていくうちに、それぞれの時代の潮流や熱気から、陶芸表現の広がりやダイナミズムを体感いただけるのではないのでしょうか。

本展ではまず、現代陶芸のパイオニア世代のレジェンド・林康夫(1928-)の作品に焦点を当てます。林の作品をクロニクルに振り返ること＝現代陶芸の歴史を知る、と言っても過言ではありません。林は1947年に前衛的な陶芸制作を目指して京都で結成された「四耕会」に19歳で創設メンバーとして参加し、「芸術への希求をやきもので挑んだ」気鋭の作家。98歳となった今でも、制作への熱い思いを絶やすことはありません。

次に、1948年に結成された「走泥社」の創設メンバーの八木一夫(1918-1979)、山田光(1923-2001)、鈴木治(1926-2001)らの作品をはじめ、同時代のアートの動向と共振しながら生まれていった、各時代の様々な陶芸表現を取り上げます。とりわけ作品の大型化やインスタレーション化が進み、現代アートの一領域として陶芸が注目を集めた1980年代から1990年代に活躍した作家たちの大型作品や、2000年代以降、拡張し続ける陶芸表現の革新を担った新世代の作家たちのユニークな作品にも注目し、豊かな展開をし続ける「ゲンダイトウゲイ」の魅力を探ります。本展を通じて、「やきものはアートだ！」と感じていただければ幸いです。

◎同時開催のテーマ展 「丹波焼の世界 Season 10」 開催中～2026年11月23日(月・祝)

◎次回特別展 「おいしいやきもの一酒と醤油と料理のうつわ」 2027年3月下旬(予定)～6月6日(日)

交通のご案内

【鉄道・バスをご利用の場合】◎JR福知山線「相野駅」下車(大阪駅から約50分)、駅前からウイング神姫(路線バス)「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分、「兵庫陶芸美術館」下車 ※相野駅発バス時刻 9:33、10:15、13:10、15:45(土・日・祝)は10:47、11:36、13:41が増便(2026年7月現在) 【自動車をご利用の場合】◎舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹南篠山ICから約20分 ◎中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分 ◎阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分 ◎駐車場無料(敷地内 普通車44台分)、大型可 [その他] ◎無料貸出有(車椅子4台、ベビーカー2台)

土と語る、森の中の美術館
兵庫陶芸美術館
The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135
兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
TEL 079-597-3961(代表)
https://www.mcart.jp



ホームページ



Instagram



Facebook

関連イベント

◎出品作家によるリレー・トーク

八代清水六兵衛氏・田嶋悦子氏・竹内紘三氏・田中悠氏
日時＝9月19日(土) 11:00～
場所＝当館展示棟 展示室1・2 ※事前申込不要、観覧券が必要

◎2026年度作家招聘事業交流イベント

現代の象徴である「デジタル」をテーマにユニークな陶芸作品を制作する作家・増田敏也氏をお迎えし、トークイベント(二部構成)を行います。
日時＝10月3日(土)

①増田敏也氏によるスライドレクチャー

時間＝11:00～12:00/場所＝当館研修棟1階 セミナー室

②クロストーク 増田敏也氏×奥村泰彦(当館館長)

時間＝13:30～14:30/場所＝当館展示棟1階 展示室2

①事前申込制(定員100名、先着順)、観覧券の半券が必要

②事前申込不要、観覧券が必要

◎ワークショップ

「過去」と「未来」～小さな立体作品を作ろう～
2種類の土、それぞれの性質からヒントを得て、「過去」と「未来」というテーマに合わせて、小さな立体作品を制作します。

日時＝11月8日(日) 10:00～15:00(予定)

場所＝当館エントランス棟1F 工房

定員＝20名(有料、事前申込制、応募多数の場合は抽選)

◎当館学芸員によるギャラリー・トーク

日時＝9月26日(土)、10月31日(土)、11月22日(日)

いずれも11:00～1時間程度(観覧券が必要)

※各イベントに関する詳細は当館ホームページでご確認ください。

